

第二次あり方懇談会 協議始まる

民社協会本部は、今年2月の総会に「民社協会あり方懇談会」最終報告を提出。そこで「いかなる厳しい状況下にあっても、何らかの形で存続していくべきである」と存続を確認し、その追記の「あり方懇談会の最終報告の提出にあたり、参議院選挙後、さらに『新しい民社協会としての具体的活動のあり方』を検討するために、新規の役員会のもとに検討会を設置し、今後の活動について全組織的な議論を継続することを提案する」を受けて、8月9日(金)の常任役員会において第二次あり方懇談会の設置を決め、9月5日(水)の常任役員会で中田・中井・玉置・名取・富田・鎌滝・田中の各氏を委員に選任した。その後、10月23日(火)の常任役員会で、大枠の流れとして会議は月2～3回のペースで行い、中間報告を年内(12月下旬)に行

い、最終報告は次期総会で行うことを決定。なお、今泉副理事長を委員に追加した。

第二次あり方懇は、10月30日に第1回会議を行い、まず中田委員を座長に選出、協議議題として、1)業務関係—会費の取扱いについて、会員及び地方議員の管理(名簿)について、政策研修会(地方議員、ブロック開催)について、国会議員団の運営について、2)広報関係—『月刊民社』の有料化について、『地方政治情報』の有料化について、3)財政関係—本部並びに地方協会の財政について、を取扱うことを確認。11月8日の第2回目から具体的項目として業務関係について、11月26日の第3回目では、広報関係について協議した。年内は、中間報告に向けて協議を続ける。

地方協会・ブロック会議の動き

富山県協会 時局講演会開催

富山県協会は11月9日富山市内のホテルにて毎年恒例の時局講演会を会員、労組関係者約300名が参加し開催された。

講師として読売新聞論説委員、日本テレビ解説者の久保潔氏が「孫たちにいい社会を」と題し講演、「エゴをやめて本音で痛みを取るべきだ。孫たちの時代にツケを残してはならない」などと指摘し、小泉改革や景気回復、労働界などのあり方について解説した。講演終了後懇親パーティーが開かれ県出納長、富山市収入役、市議会議長、連合代表等が来賓として出席、それぞれ祝辞を述べ盛会裡に終了した。

東京都協会 総会開催

東京都協会は11月17日に年次総会を都内ホテルにて開催した。

大阪府協会 合同研修会開催

大阪協会は11月18日、19日で友愛連絡会との合同研修会を開催した。

内容は講師に当協会政策担当責任者の川端達夫衆議院議員を講師に招き政治活動についての講演を行い、参加者討論会なども行った。

北信越ブロック会議開催

北信越ブロックは11月5日、6日石川県金沢市内のホテルで本年2回目の民社協会ブロック会議を開催した。

当日は福井県など5県の県協会の会長・幹事長等11名が

出席したほか、本部より中田一郎理事長が参加した。中田理事長より第二次あり方懇の経過と本部移転問題等についての本部報告のあと、各県より7月に行われた参議院選挙の結果と反省点、各県協会の活動状況等が報告された。

協議事項として民主党とのかわり方、民社協会の存続問題、友愛連絡会との連携等について各県の状況報告と今後の取組みについて意見交換をし、当面、民社協会を存続することを確認して閉会した。

静岡県協会 議員団会議開催

静岡県協会は11月14日、15日静岡県富士宮市内のホテルに於いて県内の地方議員15名が参加し、議員団会議を開催した。

この会議は民社党時代から毎年開催している行事で、議員同士の親睦と交流が深まり好評を得ている。

残念ながら本年は各議員の日程が混んでおり、参加者が例年に比べ少なかったが、各議員の発言時間が多く取れ、議論が深まった。

会議は主に各議員が当面している課題について、それぞれ発表し、その課題について意見を述べ合う形で進められ、夜遅くまで交流が行われ、実り多い議員団会議となった。

また、この会議には友愛連絡会三役も参加し、共通する課題について意見交換が行われた。



静岡県議員団会議の様相